

# 遠藤 守 レポート

発行：遠藤守後援会

## がん対策、都立高のIT整備などで一般質問

2月16日に行われた平成19年第1回定例都議会の一般質問に遠藤守が登壇しました。以下、質問と答弁要旨を紹介いたします。

### ○都の「がん登録」へ第一歩○

【質問】

がん対策基本法に基づき、都が来年度策定する「がん対策推進計画」のなかに、①がん発見「早期」の段階からの緩和ケアの推進②立ち遅れている放射線治療の普及と専門家の育成③セカンドオピニオンの充実——などを明記すべき(質問1)。

また、「地域がん登録」(※注1)を東京でも始めるべき(質問2)。

(※注1)一定地域のがん患者のデータを集め、将来のがん医療向上に役立てる仕組み。

【答 弁】

(答弁1)「(ご指摘の提案は)重要な検討課題であり、推進計画に位置付けていく」。

(答弁2)「(平成20年4月に都のがん拠点病院に指定される)病院において、一元的に分析・評価が行えるよう、体制整備を図っていく」。

### ○都立病院の末期医療充実を○

【質問】

終末期医療に関する議論が国やマスコミでクローズアップされている。現在、都立病院では、その対応が各病院現場に委ねられているが、より具体的な対応方針をまとめるべき。

【答 弁】

「国の議論の動向を見据えながら、必要な検討を適宜行う」

### ○荏原病院に「助産師外来」○

【質問】

公社荏原病院では最近、産婦人科医師の欠員から、分娩が制限されている。こうしたなか、「助産師外来」は医師の欠員に対応するだけでなく、妊婦の満足度が向上するなどのメリットがあり、正常分娩をされる方にとっては有益。

荏原病院にも助産師外来や院内助産所を積極的に導入すべき。

【答 弁】

「平成19年度中の設置にむけて、人材の確保・育成策や具体的な施設整備の方針などについて、公社を支援していく」。

### ○IT機器の整備計画策定へ○

【質問】

都立高校において情報教育を進めていく上で、IT関連の機器を充実させることは極めて重要。そのため、IT機器整備の長期計画を速やかに策定すべき。

【答 弁】

「庁内の検討委員会において総合的に検討し、早急に考え方をまとめていく」。